



首里城公園（御内原エリアなど） 平成31年2月1日新規開園！

国営沖縄記念公園（首里城地区）は、平成4年度に正殿などの開園を行い、その後、復元施設の整備とともに順次、開園エリアを拡大してきました。復元整備事業の経緯を表-1に示します。今回、平成31年2月1日の御内原エリアなど、面積約1.1haの開園により、首里城の復元整備はひとつの区切りを迎えます。

※御内原（おうちばら）とは…国王とその家族、女官達が生活した男子禁制の「生活・儀礼空間」



〔世誇殿（よほこりでん）〕

平常は王女の居室として使われていました。また、国王が死去した際に世子を新しい国王とするための即位の儀式を行う特別な建物でもありました。



〔後之御庭（くしのうな）〕

後之御庭は首里城正殿前の広間（御庭）に対して、後ろの広場という意味です。往時の後之御庭は、正殿裏での祭祀・儀礼のための広場及び生活の場であったと考えられています。



〔東のアザナ（あがりのあざな）〕

城郭の東側に築かれた物見台です。場内で最も高く、往時は城下に時を知らせる役割もありました。



〔美福門（びふくもん）〕

内郭に建てられた門で、継世門（けいせいもん）が建てられる前までは、美福門が首里城の正門であったとする説があります。

開園記念式典 (平成31年1月27日)

平成31年1月27日(日)に、宮腰内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)及び議員、整備事業に携わった工事関係者など、約200名が参列するなか、後之御庭において晴やかに記念式典が執り行われました。



多くのメディアに
取り上げられました!



【首里城復元整備事業のあゆみ】

表-1

年度		事項
和暦	西暦	
昭和 61	1986	沖縄県が「首里城公園整備計画調査」を策定。
		国営公園区域について「国営沖縄記念公園首里地区(仮称)」として事業着手。
		首里城公園(17.8ha)が都市計画決定される。
平成元	1989	首里城正殿建築工事に事業着手。
平成 4	1992	首里城地区一部開園(供用面積1.7ha)。
		正殿、瑞泉門、漏刻門、広福門が完成。
		奉神門、南殿・番所、北殿、御庭が完成。
平成 9	1997	歓会門、久慶門内側周辺供用(0.1ha追加)。
平成 10	1998	首里森御嶽完成。
平成 11	1999	継世門完成。
		白銀門完成。
		二階御殿完成。系図座・用物座完成。
平成 12	2000	供屋(万国津梁の鐘)完成。日影台完成。
平成 15	2003	右掖門完成。
平成 18	2006	京の内供用(0.7ha追加)。
平成 20	2008	書院・鎖之間供用(0.1ha追加)。
平成 22	2010	書院・鎖之間庭園供用(0.1ha追加)。
平成 25	2013	淑順門供用(0.1ha追加)。
平成 26	2014	黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院供用。
平成 27	2015	奥書院庭園供用(0.1ha追加)。
平成 28	2016	銭蔵跡、厩・係員詰所跡供用(0.3ha追加)。
平成 30	2018	北城郭園路広場供用(0.4ha追加)。
平成 30	2018	御内原エリア、東のアザナエリア、継世門・美福門エリア供用(1.1ha追加)。

※赤: 国が整備を実施 青: 国以外が整備を実施

沖縄県の観光をリード



現在、首里城公園は、年間約280万人が訪れる沖縄観光の重要な拠点となっています。御内原などエリアの新規開園は、沖縄観光振興の追い風となることが期待されています。